

『BBちゃんの「じゅ・な・ん」♥』

皆さんこんにちは。私、BBちゃんはサポートという形で「別」のカルデアのセンパイさんのところにお邪魔しています♪

この前も魔力供給の際にちよろつとセンパイを虐めすぎたからあ…

嫌われちゃったのかしらあ…

まあ、あんな粗末なおチンチンで私に飛び掛かってくるんだもの

虐められて当然ですよ♥

こっちのセンパイはなんだかデブデブしててトロそうだし♪

「あっち」の方もどうせお粗末なものでしょう…

どんな無様な声で泣くのか…

こっちのセンパイも虐めがいい♥ありそうです♥

てっおっおっ！

ふっ

ふっ





顎が…っ

…はずれっ…!!

それに、なんて力…
抵抗できない…!!

サーヴァントの私が?!

「すごい!!
口の中で俺の
おチンチン押し
戻そうとしてる!」

「あゝ…いい…っ
BBちゃんが僕の…
俺のを銜え込んで…っ」

「いっよお!!」

「出そうだよお♡♡!!」

「出る…っ!!」



「げほっ…
げほお…っ!!」

「どう? 僕のザーメンは?」

「すごい濃いでしょ」

「魔力もたっぷり
詰まってるんだ」

「でも、BBちゃんは
サーヴァントだから
いっぱいほしいよね?」

「いら…ない…です…」

「フヒヒっ、嘘はダメだよお」

「ほら、おマンコも
せーし欲しいって
ヒクヒクしてるよお」

「ひっっ!!」

このセンパイ
イカれてます!



こんな…
こんなはずじゃ…!!

早く…
早くここから
逃げない!



「あっ、ああっ!!」

「や...はげし...っ
壊れちゃいますっ」

「ブヒヒッ!!
これが夢にまで見た
BB たんのオマンコ!!」

「膣内もキツキツで、
僕のおチンチン
千切れちゃいそうだよ!!」

こっちはアソコと
子宮が壊れちゃうん
ですけどおっ!!

「はあはあ...
実はね僕の精液
すっごく濃いから
サーヴァントを受肉
させられるんだよ」

「...!?」

「だから僕の精液で
受肉したらいつぱい
赤ちゃん作ろうよ♥」

そんなことになったら、
センパイさんの所に
帰れなくなっちゃいます!!

「あんなマスターの
ところに戻らなくて
済むからね!
ブヒヒッ!!」

このマスターさん
もうやだあ...!

「いりません!」

「いりませんからあつ!」

「でも、おマンコは
僕の精子欲しくて
締め付けてきてるよ!!」

「だからいいよね?
出すよ!!」

「...BB たんの子宮に!!」

「孕ませ受肉精子!!」

「だめええっ!!」

イグツ

こんなつ
魔力が
濃すぎて……っ!!

あつあつあつあつ……!!

『ラブヒッツラブヒッツ♪』

そん…な…
セン…パイ…
助け…て…

私のB
受難はまだ
始まったばかり…

「でも安心して、
こつちのカルデアにある
聖杯でしっかり受肉させて
あげるから♡」

「これからーっふり
愛し合おうねBBたん♡」

「ブヒヒッ
イっちゃったねえ♪
やっぱ僕とBBさんの
相性は最高だよ♡」

「何回でもできるよ♥」

「ああ、そうそう
ザーマンでの
受肉はウ・ソ」

←to be continued